

はる

Vol. **101** 2016.3 (隔月刊)

社会福祉法人 一心福祉会

<https://www.isshinfukushikai.or.jp/>

場 所 : 大宜味村押川
撮影者 : 池原 浩幸

リレー連載

ドキュメント「心福祉会 ⑰」

『福祉で村興し』 地域・制度と共に歩んだえすの里の軌跡

障害者支援施設えすの里 施設長 平 良 長 利



平成 24 年に開設した就労センターえすの里

「福祉で村興し」を合い言葉に昭和五十七年四月に開設した身体障害療護施設一心療護園に引き続き、当法人二番目の施設として、平成五年十月、入所定員五十名の「精神薄弱者授産施設えすの里」が開設された。

えすの里を建設するに当たっては、国からの用地の買戻し等幾多の困難はあったものの、大宜味村当局や関係者の熱い思いと努力により無事開設することが出来た。

事開設することが出来た。授産事業については、地域の皆様の協力により、施設で栽培した花木の苗や野菜の苗等を農協や給油所の店頭で販売させて頂き、多くの収益を得ることが出来た。また、その後えすの里のシンボルとなるマンゴー栽培も、村内のマンゴー農家や村老人クラブの協力によりいち早く取り組み、地域と共に歩むえすの里がスタートした。

その後、平成十五年の支援費制度の施行と時期を同じくして定員四名の短期入所事業所を開設し、平成十六年に知的障害者地域生活援助事業のグループホームを開設するに至った。私が一心療護園からえすの里に赴任したのはその翌年の平成十七年であったが、その時のグループホーム利用者の支援の在り方に少し気がかりな点があった。と言うのは、当時のえすの里は入所授産施設であるためグループホームの利

用者に対し、法制度に基づく日中支援の受け皿が整備されておらず、制度外での利用者と同様に作業に従事させて工賃を支給していたが、この様な状況では労基法にも抵触するのではないかと懸念された。そこで身体障害者療護施設にあつた通所療護と同様な制度がないものか調べた結果、入所授産施設にも通所部を設けることが出来る制度があることが分かり、県内で初めてこの事業であったが、自立支援法が完全施行される直前ぎりぎり定員六名の通所部の事業認可を受けることが出来た。

平成二十四年四月にはえすの里も自立支援法の新体系へ移行することになり、本体施設は障害者支援施設えすの里と名称を改め、日中活動は障害の重い利用者を支援する定員四十名の生活介護支援事業に移行し、比較的障害の軽い利用者は地域移行を目指し、自前の資金で定員十名のグループホームを整備するとともに、障害者自立基盤整備事業の助成金を得て、国道五十八号線沿いに定員二十名の「就労センターえすの里」を新たに整備して就労移行支

援(定員六名)と就労継続支援B型(定員十四名)の事業所としてスタートした。その後、就労移行支援事業は廃止して現在は就労継続支援B型事業(定員二十名)として事業を展開し、授産事業もえすの里のシンボルであるマンゴーの生産や門松造り、官公庁等からの受託作業、老人ホームの洗濯・清掃の受託作業、弁当・惣菜の販売等を実施しており、利用者の平均工賃も県内のB型事業所の平均より一万円以上多い、二万五千円余を支給することが出来た。

この様に様々な形で事業を展開し、職員も障害者支援施設えすの里の開設当初の二十二名から、現在ではえすの里全体で、常勤・パート合わせて四十七名を雇用するに至り、「福祉で村興し」と言う法人の設立理念に基づいて、微力ながら地域の活性化に貢献することが出来たのではないかと思慮される。

現場レポート④

「サービスの質の向上と標準化を目指して」

―施設内研修会への取り組み―

一心療護園

全国身体障害者施設協議会（以下、身障協）の加盟施設は、「障害者の権利に関する条約」の理念を遵守し、「最も援助を必要とする最後の一人の尊重」「可能性の限りない追求」「共に生きる社会づくり」という基本理念を実現するという使命があります。

その使命の遂行に向けて、一心療護園では、平成二十六年三月に身障協より発行された「個別支援の実現に向けた「ケアガイドライン」で示された「ケアチェックリスト」を活用して施設内研修会を三

月に行う予定で実行員を選出して進めております。

実行委員には、昨年十月と十一月に九州障害者支援施設協議会と身障協がそれぞれ開催した、ケアガイドラインの実用に向けた研修会に参加した職員五名で構成しており、その伝達研修という事で行います。

研修会に先立ち、二月に全職員へ「ケアチェックリスト」を配布して、それぞれがチェックして、多岐にわたる項目の中から「良いサービスレベルに達しているもの」と「課題」と感じるものを選出して、それを基に各グループ

毎で討議を行い、最後に各グループでまとめた結果を発表する事で事業所全体で共有し、現在提供しているサービスのレベル（位置）を知る事を目的とします。
今後も県内外のさまざまな研修会等に多くの職員を派遣し、そこで得た情報などをこのような研修会を通して、全職員が共有できるよう取り組んでまいります。
サービス管理責任者 平良 健



個別支援の実現に向けてのケアガイドライン



より専門性を高めて腹膜透析CAPD勉強会



小規模 いっしん

一月十二日小規模いっしんにおいて腹膜透析勉強会を開催しました。

講師に上間利沙氏（県立北部病院看護師）と比嘉健太郎氏（バスタ㈱透析製品事業部）によるデモンストレーション（手技）を行い腹膜透析の一連の流れを学びました。講義内容①腎臓とは②腎臓の働きについて③腹膜透析CAPDとは④腹膜透析の実際⑤腹膜透析患者さんで気を



新規受け入れに向けて全体で取り組んでいます。

付けてほしいなどを学びました。腹膜透析の流れを学ぶ事で医療側からのアドバイス等を得られることが分かり事前に勉強会で学んだ事によりスタッフの意識、知識向上につながり、受け入れの際の心配や不安を軽減することが出来ました。今後も利用者、家族が安心して利用できる小規模いっしんでの支援を行って行きたいと思っております。

金城 光代



余暇活動

花見・ドライブ節分・菜園



地元の行事

一心療護園

一月二十三日～二月七日まで本部町八重岳で開催された「本部八重岳さくら祭り」へ地元出身の方を中心に三回に分けて出かけました。

バスの中からの目線と一緒に見える桜に春の気配を感じ癒されました。

また、地元という事もあり、家族の営む食堂からてん

梅の花ドライブ

小規模 あがり

一月十九日(火)小規模あがりでは利用者さん五名と名護市源河のオーシツタイへ、見頃を迎えた梅の花を観にドライブへ出掛けました。

現地に到着すると「きれいだね、すごいね」など、利用者の皆さんは白く満開に咲く梅の花に驚き、魅了されました。とても喜ばれていました。

ぶらの差し入れなどもあり、楽しい外出となりました。



さくら祭り「春を感じた外出となりました。」



桜もいいけど、梅の花もきれいだよー！

参加された利用者の皆さんは、終始笑顔が絶えず、久しぶりのドライブを満喫されていました。

宮城 由美子

鬼役が人気！

えすの里

えすの里では節分の日に合わせて、皆で新聞紙で作った豆を使って豆まきをしました。

えすの里では鬼役が大人気！利用者さん皆、鬼役をし

収穫しました

デイサービス

自分たちで植えた、ジャガイモと大根を収穫しました。



自宅に持ち帰り今日の夕食に…

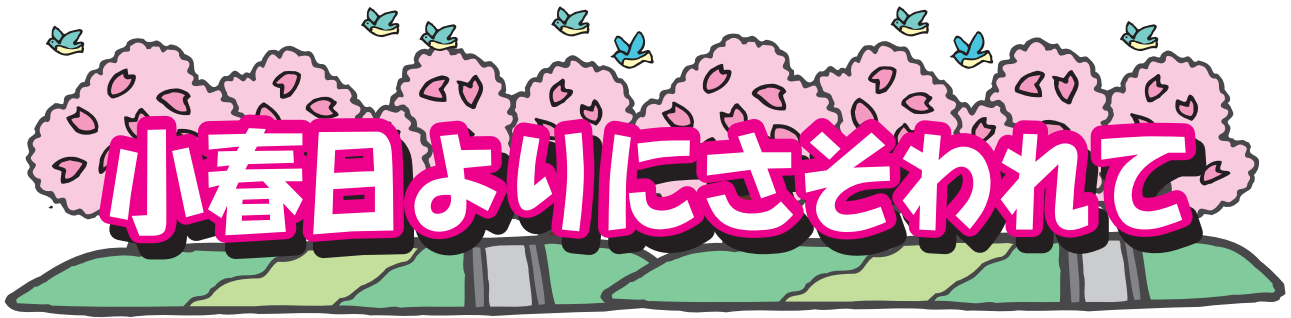
たがります。この日は厄払いをしながら可愛い鬼と楽しい節分の日を過ごしました。今回、可愛い鬼さんは、隣接する老人ホームにも出張！老人ホーム利用者さんにも大好評でした。元氣と笑顔を与えるえすの里の鬼さん！来年も楽しみます。



職員も厄払い♪



お茶目な鬼さんがデイサービスにも出現



小春日よりにさそわれて



「いやー久しぶりにここへきたなー」



天気恵まれ気分は上場

二月十日、押川（旧友善ホテル）の坂道にさくら見学に行きました。さくらのトンネルができていて、とても綺麗に咲いています。ホテルの仕事で草刈りをした利用者がその当時の様子を話していました。

午前、午後と二班に分けて十一名の利用者が参加し、とても楽しいドライブとなりました。

やんばるの家

さくら見学



今年も健康で過ごそう！！ 鬼もちづくり



我家ではこう包みます。

デイサービスでは、一月二十一日・二十二日にムーチャー作りをしました。慣れた手つきで包み、芭蕉のひもで結び、たくさんのムーチャーが出来上がりました。作業中の会話から「葉っぱの裏に包む」「葉っぱの裏に包む」等の、地域によって違いがあることもわかりました。今回は、おいしく安全に食べていただくためにいつもの材料にプラスして豆腐を混ぜるというレシピを試してみました。粉二百gに対して絹ごし豆腐一パックを入れます。のどごしが滑らかになり、喉につかえる心配が少なくなります。食べてみても、「豆腐の味やにおいは感じられず好評でした。昔から、家族の健康を願って作ってきたムーチャー。その思いは今も変わらず。この一

デイサービス

デイサービス 嘉陽

年も、健康に楽しく過ごしましょう。



実習生も手伝いました。

小規模 あがり

健康・長寿を祈願し、縁起物として食されるムーチャー。小規模あがりでは一月二十五日（月）に利用者の皆さんと一緒にムーチャー作りを行いました。

もち粉に、ふかした芋を多めに入れ、サンニンの葉に包む作業を行ったのですが、利用者さん各家の包み方があり様々な形をしたムーチャーがたくさん出来あがりました。

蒸しているとサンニン独特の良い香りが施設内に立ち込め、三時のおやつに提供されたムーチャーは「美味しい！もっと食べたい」などの声もあり、大好評でした。

平良 姿野



おおぎみ展に 作品を出品



ディサービス



大宜味展「多くの出展作品に見入っていました。」



一月二十二日～二十四日に大宜味村農村環境改善センターにおいておおぎみ展が行われました。
ディサービスでは、東村福祉祭りに続き作品を出展しました。村内利用者五十名余の毛糸モップ、折り紙と松ぼっくりのひまわり、トイレトペーパーの芯の飾り物です。
今回二十二日及び二十三日に、小雨降る寒い中ではあり

終戦後教員試験を受験して合格をした。塩屋小学校に根拠出身の先輩夫婦がおられたので塩屋小学校を希望し



人生はたった一度と言われますが、その人の歩んだ人生は唯一のもの。その貴重な体験を「私のヒストリー」(ライフヒストリー)と題してご紹介する企画です。

教員生活と子育て

ましたが、希望者十二名を見学に参加させることが出来ました。今年で統合廃校となる四小学校の昔の写真を懐かしそうに眺めたり、村内出身者の絵画、陶芸、芭蕉布等を真剣に見入っていました。村内小中学生の習字、手工芸、絵画等には、「みんな、上手だね、自分たちの時代は、こん



平良とみさん (93 才)
小規模いっしん利用者

た。希望どおりに塩屋小学校に配置になりました。
塩屋小学校では三年の担任になった。初めての教員生活で、とまどうことだけであつた。一番困ったことは音楽でオルガンにさわったこともないので音楽が苦手であつた。音楽は単音でオルガンを弾いて授業をおこないました。単音でも生徒はついていき楽しい音楽活動が出来ました。
音楽の素養がないので、い

なに上手く書けなかった」との感想等もあり、色々な作品を見て、充実した時間を過ごす事が出来ました。来年もディサービスで、楽しく沢山の作品を作り出展する事で、多くの利用者が見学に行きたいと言ってもらえるよう取り組んで行きます。

つまでたつても単音だけの音楽でしたが、生徒は喜んで音楽活動をしてくれました。
又、自分の子供が病気になる時は父母に預けて学校に行くのが大変辛かった。子供の泣くのを聞きながら、それでも学校に行った。一日中子供の泣いていた声が耳につき大変悲しい思いをしました。
それから、運動会の際は村四校の小学校が同じ日にくまっていたので、運動会に行くことができなかったため叔母さん達にお願いしてお弁当を持っていつてもらいました。楽しい運動会のひとときも子供達のことを思い寂しかった。叔母さん達が一生懸命子供達の世話をしてくれたので助かりました。子供達は寂しい思いもせず元氣よく運動会を楽しんだ様でした。
子育てをしながらの教員生活は大変でしたが周りの協力があり教員生活を続けることが出来ました。
聞き書き文責・吉本 淳子(娘)

家族会総会

くやんばるの家

平成二十八年年度家族会総会が一月十七日(日曜日)に開催されました。三十二家族三十九名の参加があり、平成二十七年年度の事業報告、収支報告及び今年度の事業計画、予算案等の決議事項はスムーズに決まりその後、職員を交えての情報交換を行いました。各テーブルで家族からの意見要望等を聞くことができました。今後の施設運営に反映して行きたいと思えます。

ズに決まりその後、職員を交えての情報交換を行いました。各テーブルで家族からの意見要望等を聞くことができました。今後の施設運営に反映して行きたいと思えます。

ご家族からのご意見や質問など 有意義な時間を過ごすことが出来ました。



中村保家族会会長のあいさつ



家族・職員の情報交換の様子

障がい者 スポーツ大会



一名護市



～在宅で生活されている時から継続して参加している地域イベントへ参加しました。～

名護市の主催する身体障がい者スポーツ大会が二月十四日に開催され、在宅で生活されていた時から参加されている嘉陽光子さんへ今年も招待状が届き、参加しました。室内ボウリングやフライングディスク・ストラックアウトなど七種目に参加され汗を流しました。また、名護市内のグループホームで生活されている息子さん二人との久しぶりの再会を喜び合いました。



久しぶりの再会に嬉しそうです♡

一心療護園

グループホームでは、新年の余暇活動として、初詣に行ったり餅つきをしたり、季節を感じる余暇を過ごしました。正月の雰囲気を見て・食べて楽しむ事ができ、特に初詣でのおみくじは利用者さんに好評で皆で今年の運勢を楽しそうに見せ合っていました。今後も利用者の皆さんが休日を楽しみ、季節行事等、色々な事を体験し感じる事が出来る余暇支援を目指して行きたいと思っています。



初詣。楽しい元旦を過ごしました。



みんなで力を合わせて餅つき♪

楽しいグループホーム生活を目指して！

くえすの里



献血協力
しました!



ディサービス理学療法士 宮城さやかさん学術大会にて発表



第17回 沖縄県理学療法学術大会

豊見城中央公民館 (平成 28 年 2 月 21 日)

テーマ



宮城 さやかさん

要支援状態を維持するために
必要な運動機能の検討
大宜味村・東村における高齢者の
一年間の追跡調査



介護に関する
困ったを共に考えます!

サービスや手続きの相談等受付ます。

介護支援センター やんばる

電話 0980-44-2398

担当: 座喜味・安里

お気軽に
お電話下さい!

童謡コンサート
ボランティアさんが来ました。



2カ月に1度の楽しみです♪